

## 第2回三沢市復興委員会会議録

- 日時：平成23年8月25日（木）13：30～14：40
- 場所：三沢市公会堂3階 第8集会室
- 出席委員：佐々木重喜、佐々木暢智、今泉利昭、山崎文男、鹿内勲、平内進勝、川畑好弘、杉山寛治、坂本幸子、野々宮壽喜、大塚和則（委員長）、工藤智彦、野々宮忠良、宮古直志、中西敬悦、宮古健一、今村哲也、月館孝（18名）

- アドバイザー：八戸工業高等専門学校 教授 河村 信治
- 事務局：（政策調整課）山本課長、山本課長補佐、柿崎主査
- 議事等  
（午後1時30分、開会）

（司会）ただいまから、三沢市復興委員会を開会します。

### （1）第1回防災対策等検証部会の報告について

（委員長）（1）第1回防災対策等検証部会の報告について説明願います。

（総務部長）第1回防災対策等検証部会の報告について、資料1により説明。

### （2）第1回漁港等復興防災対策等検証部会の報告について

（委員長）（1）第1回漁港等復興支援部会の報告について説明願います。

（農政水産課長）第1回漁港等復興支援部会の報告について、資料2により説明。

### （3）第1回生活支援・相談部会の報告について

（委員長）（1）第1回生活支援・相談部会の報告についてから説明願います。

（民生部長）第1回生活支援・相談部会部会の報告について、資料3により説明。

（委員長）ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

（委員）部会へ出席して、漁港の復旧は順調に進んでいると感じました。

部会への意見としては、東日本大震災では津波到達までの時間があったが、到達まで時間が無い場合については、緊急の連絡体制が必要ではないだろうか。

また、防災対策等検証部会についての地震・津波のマニュアル化について組織図を作る事は良いことです。但し、震度6以上の地震が来た場合は、自宅の倒壊などが考えられ、対応職員が災害対策本部に速やかに出ることは難しいとも考えられます。この場合に、指揮系統を統括する職員が遅れる事によって、初動が遅れることも考えられます。特に初動対策をマニュアル化する事により、その場にいる職員でも初期の救援対策が取られるものと考えられます。三沢市にも30年以内に大きな地震が来るとされていますので、大きな地震や災害に対応できる体制を作る事が重要だと考えます。

(副市長) 津波が来た場合の連絡体制の整備と、地震があった場合にどの様に初期対応するかについて。総務部長。

(総務部長) 第1回部会において、班毎に地震・津波の対応マニュアルを作る事としていましたので、その中で、連絡体制を構築したいと思います。また、連絡体制となると、広報無線等になると思われませんが、大地震については、津波が来るという前提で周知させなければならないと思っています。地震時の災害対策本部等については、検討して行きたいと考えております。

(副市長) 今回は津波の被害が大きかったが、震度6程度の地震があった場合も相当な被害が出る事が想定されます。よって、それも踏まえた防災計画にしたい。

また、対策本部の在り方についても、市長応接室にございますが、スペース的にも狭く、関係者が入りきりません。初動、初期対応をどうするかについても、今の計画の中で考えるべき事項と考えます。

(委員) 資料3において義援金については、残はどれだけあるのですか？2次配分もあるのですか？また、農業被害・漁業被害について、30万円という基準はありますか？

(民生部長) 義援金の額は7月末現在、8,685万8,890円一次配分は5,730万円を支給しました。よって、義援金の残は2,955万8,890円の残があります。

農業被害は、トラクター等の機器の損傷や、農地の塩害などについて一律30万円、漁業は被害が大きかったのですが、農業と同じ額で一律30万円としました。

(副市長) 参考までに申し上げますと、農業被害はトラクターなどが海水に浸るなどで修理に、相当の経費が掛かります。また、漁業被害としては、船、魚網や機材などの流出など、一件当たり数千万単位であるとは思いますが。

事業者毎に、この額に差をつけられなかったため、一律同額を支給しました。

(委員) 三沢市の地震対策、耐震化がなされているかについて。

学校は耐震化がなされているとは思いますが、災害対策本部が大地震に耐えられるのか。公共施設が地震に耐えられるのか。

震度6程度の地震が来た場合、今の基準でも相当の被害が出ます。病院は新しい免振構造が取られており安全かもしれない。

しかし、建築基準法では震度6で「建物は壊れるかもしれないが、生命は守られる」という強度を持つという基準だと思います。対策本部を置く施設の耐震化をしなければ、そこに設置出来ないと思いますが、これをどの様にお考えなのでしょうか？

(総務部長) 対策本部の代替施設として考えられる施設については、平成23年度に耐震診断をします。また、市庁舎は、以前の耐震基準で建てられておりますので、平成24年度において耐震診断を行う予定です。

(副市長) 公共施設については、最終的に全て耐震診断を行うべきではあるが、徐々に行っていきたいと考えております。

(副市長) 問題提起をさせて頂きたい。

停電時、情報が足りないため、多くの市民の皆さんが市役所に来ました。

ここでは、電気回復などの情報が全く無く、家庭ではテレビもラジオもつかない中で、停電時の不安感が市民の皆様の中に相当にあった。この中で情報提供、連絡体制をどう構築するかを今後具体的に検討したい。

例えば、FM局等も考えられる。阪神淡路大震災では、FM局が大いに活躍したと聞いています。FM局の開設も考えたい。相当にお金が掛るかもしれないが、情報を提供できる手段を検討したい。災害時には、電池とラジオが必需品であり、これらがあれば聴く事が出来る。

(委員) 三沢では共同アンテナなので、停電時にCATVが映らない。

また車のTV(ワンセグ等)も映りが悪い、ラジオもよく聞こえない。相当な基地からの電波障害があるのではないかと考えている。これらも踏まえて情報提供手段について考えてほしい。

(副市長) 停電時には全く映りませんので、お困りになったと思います。

市から防衛省に対して正面から電波障害があるとは言っておりますが、防衛省からは障害は無いという回答がされており、明確な合意に至っておりません。

市側から何かありますか？

(総務部長) 震災後、防災HP、防災メールなどがダウンしてしまいました。防災メールについては、リスク分散をしていたにも関わらず完全にダウンしました。

市として、一番情報提供しやすい手段は、ラジオなのではないかと思えます。

(副市長) 震災後に停電となりましたが、発電機でも困りませんでしたか？避難所が暗くて、トイレにも行けない、ロウソクを立ててやっとトイレまで行けたなど、困った話を多く聞いている、よって発電機を避難所に設置したい。

現在、市内の数か所の集会所に発電機を付けてくれという要望もあります。集会所に設置するのも難しいが、避難所17箇所のうち、数か所には発電機を用意するという対応をしたい。この発電機の関係でご意見がありますか？

(委員) 発電機を設置したとして、ガソリンが足りないのでは意味が無い。

最低限のエネルギーは、再生可能なエネルギー、太陽光等を使用してはどうか。これであれば、日中、日光が出ていればよい。パネルや蓄電池の話にもなるが、この発電機も長続きするとは思えない。

(副市長) 避難所に物を運ぶためのガソリンの確保が出来なかった。水道のポンプも重油で発電しているが、限界がある。ガソリン、燃料は現実的にはどうするのか？が問題である。

(総務部長) ガソリンが無いと対応できないため、今後、市の燃料組合との協定を結ぶところである。

(委員) 市内の集会所のストーブも電気が必要である。反射式のストーブが良いのではないかと？

(委員) ガソリンが無いという自体が不思議に感じます。地震については、その対処が必要です。ガソリンについては、慌てる前に対処する気持ちが必要。私は、ガソリンの残が半分になったら給油するようにしている。常に個々の努力が必要であるとは感じています。

(委員) 私は、携行缶に常時ガソリン蓄えており、これをみんなに配った。持っているとは便利である。備えあれば憂いなしと考えている。常に備えは必要だと感じている。

(総務部長) 市の対応としては、反射式ストーブではなく、避難所にダルマストーブを備え付ける事にしていきます。

(消防長) ガソリンは、危険物となるため、きめられた容量を超えて、むやみに保管するのは、危険な状況になりかねない。一概に極端な対応はむずかしいのではないかと。バランスの取れた対応を考えて置かなければならない。

(副市長) 自分の安全は自分で守る発想が大事である。これをどの様に市民の皆さんに定着させるか？が問題である。この場合の最低限の防災グッズを整備させるかを、行政が浸透させるべきではないか。これも復興計画の1つに盛り込むべきポイントである。

(消防長) もうひとつ、自主防災組織を各町内会に作って頂きたいとお願いしている。器材は支給するが、使いこなすにあたっては訓練もして頂きたいと考えています。

(委員) 東北電力さんもいるのでお聞きしたい。電柱はどれぐらいの震度で倒れるのでしょうか？

(東北電力) 地形や地盤にもよります。震度4～5で倒壊する危険性があるものと考えて下さい。

(委員) 市の条例として、義援金を幾ら払うという条例は作れるのか？

今回の災害では全壊100万円だとして、他の規模の小さい災害でも同様に100万円支給できるかと考えると分からない。災害の規模によって支給される額が変わるのはどうかと思う。

(民生部長) 義援金は善意の寄付であり、条例化は難しい。また、残額についても配分によって残らないようにしたい。

(4) 三沢市復興計画（素案）骨子について

(委員長) (4) 三沢市復興計画（素案）骨子について、事務局から説明願います。

(事務局) 三沢市復興計画（素案）骨子について、資料4により説明

(委員長) ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

質問等は特になし。

(委員長) 本日の審議は、以上で終了となります。ありがとうございました。

(司 会) これをもちまして、三沢市復興委員会を閉会いたします。

(午後2時40分、閉会)